

北九州市における地域の再エネを有効活用した CO₂フリー水素製造・供給実証事業



事業概要

北九州市響灘地区に集積する太陽光発電や風力発電、北九州市内のごみ発電(バイオマス)などの複数の再エネ設備を有効活用することで、CO₂を発生させずに水素を「つくり」、県内各地に「はこび」、「つかう」ことを目指し、CO₂フリー水素の低コストなサプライチェーンモデルを構築する実証プロジェクトを、環境省からの委託(*)を受けて実施します。

※既存の再エネを活用した水素供給低コスト化に向けたモデル構築・実証事業

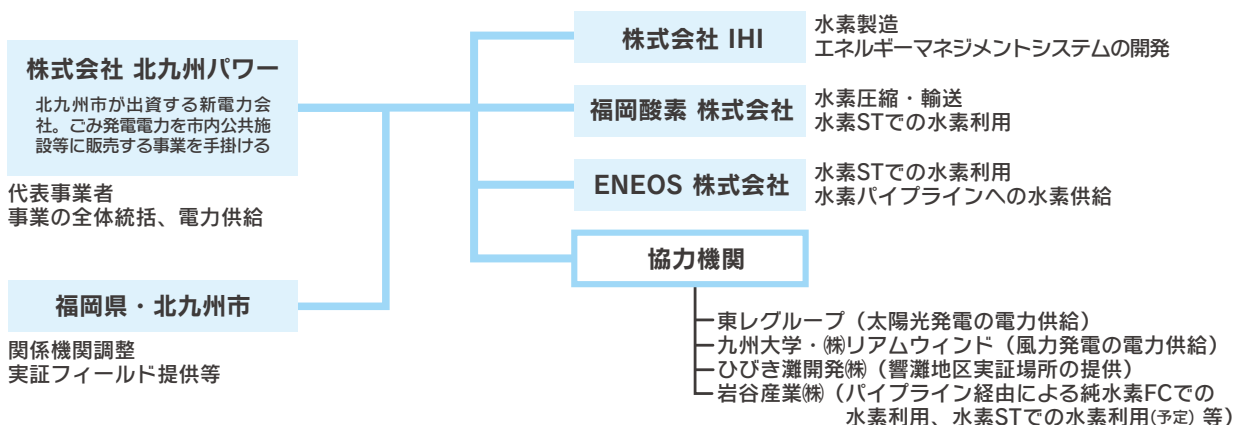
期間

令和2~4年度

実証場所

- つくる・ためる ▶ 北九州市若松区響灘地区
- つかう ▶ 北九州市若松区響灘地区・八幡東区東田地区、福岡市、久留米市

実施体制



北九州市における地域の再エネを有効活用したCO₂フリー水素製造・供給実証事業

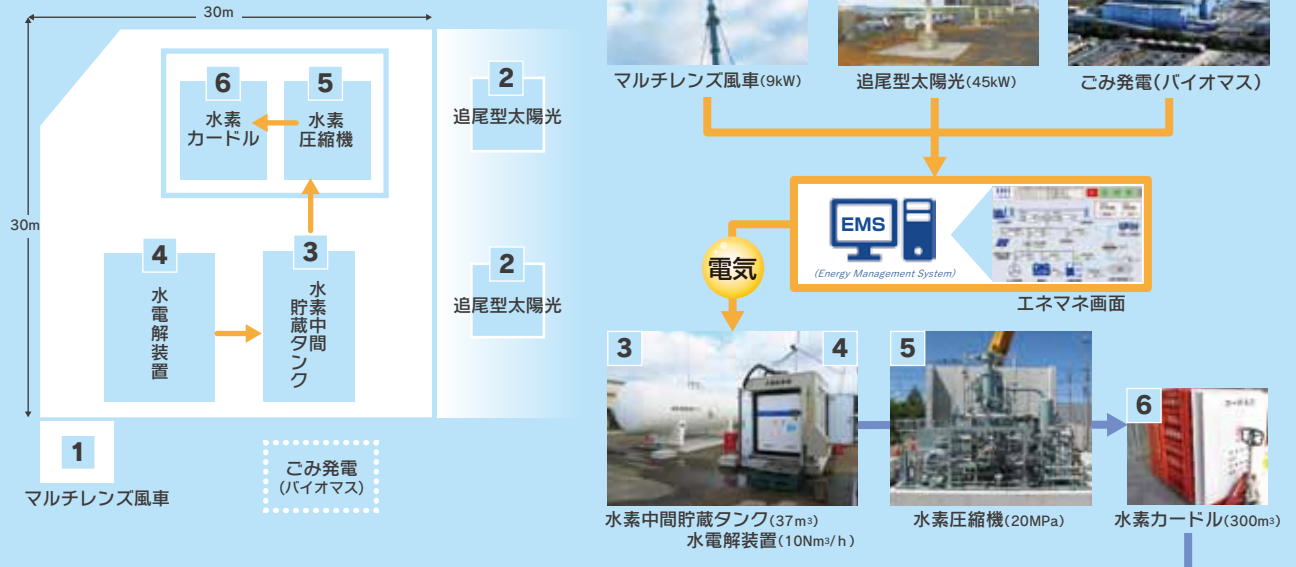
環境省実証事業

響灘地区

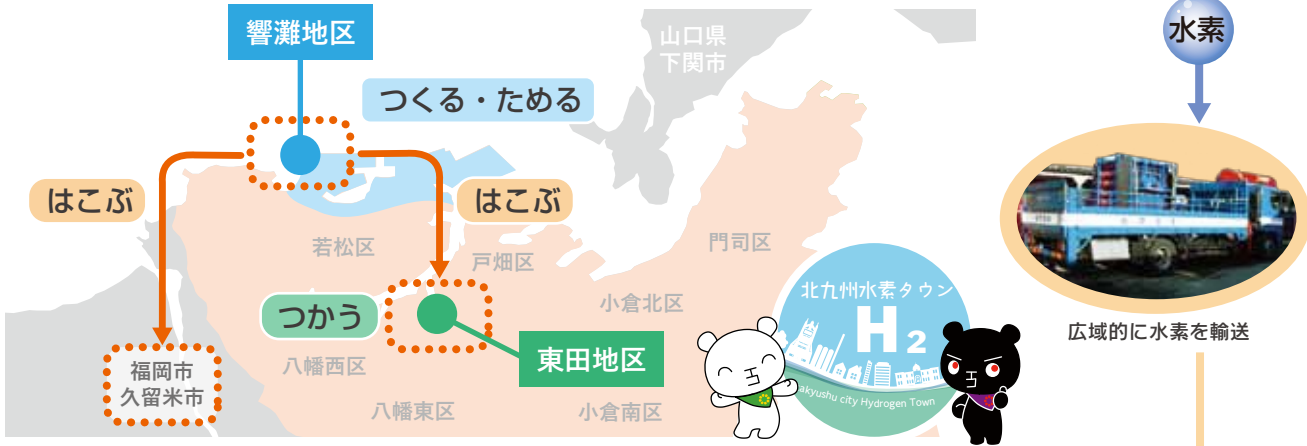
つくる・ためる

複数の再エネの余剰電力を効率的に調達し、安価に水素を製造

主要機器配置図
(実証場所:北九州市若松区響町3-19-8)



はこぶ



つかう

東田地区・福岡市・久留米市



既存の水素パイプラインや水素ステーションを活かし、様々な用途で水素を利用